

小田原市立中央図書館

地域資料コーナー通信 第18号

編集/発行 小田原市立中央図書館
地域資料コーナー
〒250-0875 小田原市南鴨宮1-5-30
☎ 0465-49-7807
E-mail: tosho@city.odawara.kanagawa.jp
令和7年10月

シリーズ 図書館の宝もの 2025

侍たちの明治・大正 ～小田原有信会文庫より～

日時：令和7年10月7日(火)～10月19日(日) *13日(月・祝)開館、14日(火)休館

場所：小田原市立中央図書館(かもめ) 2階 地域資料コーナー

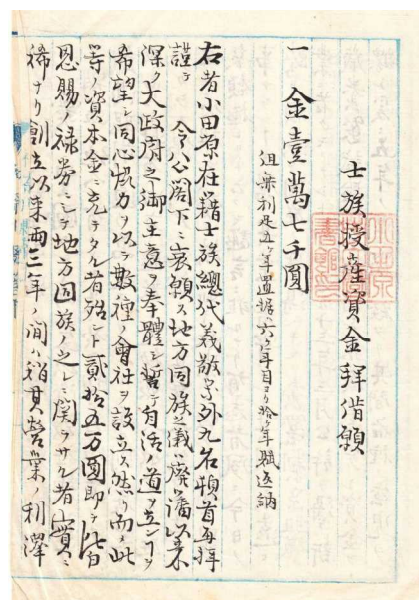
特別集書より小田原有信会文庫を紹介する史料展を開催します。
同文庫より、追加寄贈史料を中心に小田原藩士やその子孫が生き抜いた小田原の近代史に光を当てます。

小田原有信会の歴史は明治12年(1879)にさかのぼります。もと藩主大久保忠礼^{ただのり}を盛り上げるべく、旧小田原藩士が子々孫々まで旧恩を忘れないように結成された**保護社**が前身です。小田原と東京に部会を設け親睦会を開催し、大久保家よりの拠出米金と社員の出資金で基金を設け、救助金事業を行いました。家禄がなくなり、明治という新しい時代で生活に困る旧家臣(士族)もおり、会では政府から資金を借り入生田山^{いりうだ}を開墾し、養蚕・漆生産・麻糸製造などの事業展開を目論みますが、この士族授産計画は実現しませんでした。

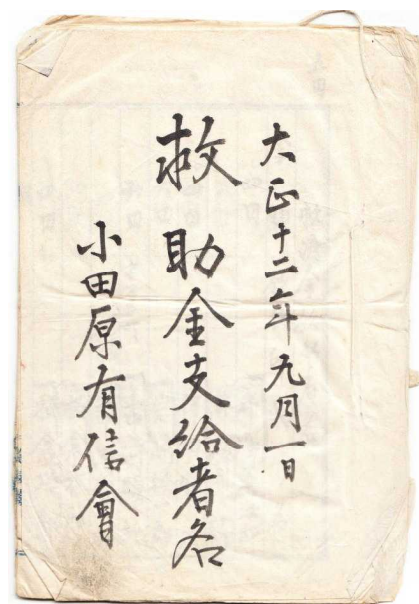
明治21年会は旧藩主家と旧藩士の福利を図る目的で**小田原共同会**と改称します。この頃、小田原町長は会員でもある士族出身者が務めており、会が中心となり小田原城址^{じょうし}天守台跡に大久保神社を創建します。同32年に会は一旦解散、改めて**小田原有信会**を結成しました。大海嘯・大震災被災者への救済金・見舞金や生活困窮会員へ救助金の支給など救済事業のみならず、会員子弟で東京に進学する者への学資奨励金、小田原中学校(現小田原高等学校)など地元^{だいかいしやう}の高等学校で成績優秀な子女の表彰など育英事業に力をいれています。また、小田原史の編纂^{へんさん}や史蹟調査も実施しました。

戦後、進駐軍(GHQ)から旧士族の集まりで右翼的な集団と見なされ、弁明できずに昭和22年解散に至りますが、同29年には復活します。小田原城天守閣復興に際しては積極的に支援しました。

昭和37年会の所有する古文書・資料などが小田原市立図書館に寄贈され、小田原有信会文庫として特別集書に加えられました。会は平成28年(2016)に活動休止となりましたが、追加して寄贈されてきた古文書・資料も目録に加えられ、小田原市のホームページにて公開しています(裏面で紹介)。



士族授産資金拝借願(写)

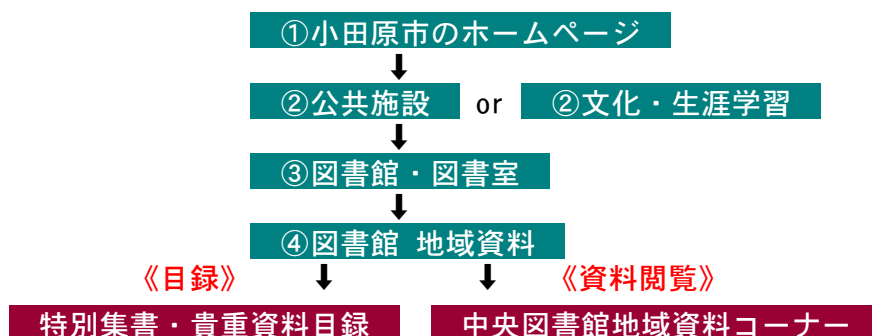


関東大震災救助金支給簿

特別集書、貴重資料の増補改訂版目録を 小田原市のホームページで公開

小田原市立中央図書館が所蔵している特別集書および貴重資料（歴史系・文化系）の公開目録について、増補・改訂版を10月中旬に市のホームページにアップします。各目録はPDFファイルでアップされます。

地域資料コーナーからのお知らせ



目録公開資料一覧

分類	資料(文書)名	点数	レコード数*	目録頁数*
特別集書	片岡文書	187	614	26
	山県公文庫	667	1014	36
	木村錦花文庫 new!	1627	1879	68
	板倉文書	170	224	10
	小田原有信会文庫	199	650	27
	牧野信一資料	102	135	7
	長谷川如是閑文庫	577	577	22
	山崎元幹文庫	1425	1867	90
	報徳集書	663	725	26
	青蛙荘文庫	1333	1960	83
	藤田西湖文庫	3266	3266	111
貴重資料(歴史系)	有浦家文書 new!	878	878	31
	岩瀬家文書 new!	133	133	7
	船津家文書 new!	3137	3418	142
	大鳥圭介関係文書	391	614	32
	高橋健三関係資料	885	2736	216
貴重資料(文化系)	首藤剛志資料	2251	2411	157
	廣澤榮関係資料	422	632	56
合計		18313	23733	1147

*レコード数：枝番を含めデータ入力された行数。目録頁数：資料解説頁数を含む。

【地域資料コーナー 利用案内】

市立中央図書館(かもめ) 2階。☎0465-49-7807(直通)
 休館日は毎週月曜日、年末年始、特別整理期間。
 資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります。
 図書・資料は原則室内での閲覧のみ(郷土図書は貸し出し可)。
 <貴重資料> 電話で事前に閲覧申請・ご予約をお願いいたします。

【編集後記】

古文書・資料・写真の市内所蔵者から寄贈したいという問い合わせが増えました。コロナが先祖や家を守る子孫の減少を再認識させたようです。